

公益社団法人 日本水産学会  
令和4年度第5回理事会議事録

1 開催された日時 令和4年9月17日(土)13時03分～16時00分

2 開催された場所 日本水産学会事務局(東京都港区港南4-5-7)

3 理事総数及び定足数

総数 17名、定足数 9名

4 出席理事総数 16名

(Web会議システムによる出席)

東海 正、山下 洋、中田 薫(第3号議案審議中13時20分に着席)  
廣野育生、佐野元彦、落合芳博、小島隆人、河村知彦、大嶋雄治、木村暢夫、栗田 豊、八木信行、奥村卓二、澤田好史、有瀧真人、吉田照豊

5 出席監事

(Web会議システムによる出席)

佐藤秀一、良永知義、野澤知世

6 出席幹事

(Web会議システムによる出席)

横田賢史、神尾道也、小糸智子、壁谷尚樹、加藤剛司(第14号議案審議中14時11分に着席)、團 重樹

7 オブザーバー

(Web会議システムによる出席)

木村伸吾(第6号議案審議後13時47分に退席)、古川史也、マーシー・ワイルダー、蒲原 聡

8 議 案

決議事項

- |        |                                     |
|--------|-------------------------------------|
| 第1号議案  | 「名誉会員推薦」の件                          |
| 第2号議案  | 「入会承認」の件                            |
| 第3号議案  | 「入会、異動及び退会の手続きオンライン化」の件             |
| 第4号議案  | 「令和5年度春季大会の日程、場所及び開催方法」の件           |
| 第5号議案  | 「令和5年度春季大会業務委託業者」の件                 |
| 第6号議案  | 「令和5年度春季大会募金目論見書」の件                 |
| 第7号議案  | 「令和5年度秋季大会の担当機関」の件                  |
| 第8号議案  | 「第21回日本農学進歩賞の推薦」の件                  |
| 第9号議案  | 「2023年度日本農学賞の推薦」の件                  |
| 第10号議案 | 「第44回沖縄研究奨励賞の推薦」の件                  |
| 第11号議案 | 「水産学若手の会公式 Twitter アカウント運用ガイドライン」の件 |
| 第12号議案 | 「水産学若手の会委員会の活動」の件                   |
| 第13号議案 | 「担当理事による委員会委員及び委員長就任について」の件         |
| 第14号議案 | 「共催及び後援」の件                          |

## 報告事項

- ① 第4回理事会以降の職務遂行の状況
- ② その他確認事項

## 9 議事の経過及びその結果

### (1) 定足数の確認等

東海会長が定足数の充足及び Web 会議用装置からなる Web 会議システムにより、出席者の音声、映像が即時に他の出席者に伝わり、出席者が一堂に会するのと同等に適時的確な意見表明が互いにできる状態となっていることを確認した。続いて本会議の議事進行について説明があった。

### (2) 議案の審議状況及び議決結果等

定款第 29 条に基づき、東海会長が議長となり、本会議の成立及び Web 会議システムを用いて開催する旨宣言し、議案の審議に移った。

(決議事項)

#### 第 1 号議案 「名誉会員推薦」の件

東海会長から、塚本勝巳会員を名誉会員に推薦する旨の説明があった。定款の第 5 条 (5) ならびに名誉会員推薦規程に基づき審議した結果、塚本勝巳会員を名誉会員として社員総会に推薦することを出席理事全員一致で可決した。

#### 第 2 号議案 「入会承認」の件

廣野総務担当理事から、原案について説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

#### 第 3 号議案 「入会、異動及び退会の手続きオンライン化」の件

廣野総務担当理事及び横田総務幹事から、原案について説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

#### 第 4 号議案 「令和 5 年度春季大会の日程、場所及び開催方法」の件

八木関東支部担当理事及び木村伸吾大会実行委員長から、原案について説明があった。審議の結果、次の通り開催することを出席理事全員一致で可決した。

日 程：令和 5 年 3 月 28 日～31 日

場 所：東京海洋大学品川キャンパス（東京都港区）

本件について次の質疑応答があった。

東海会長「東京海洋大学では、学会大会の開催は可能だが、学内での学外者の飲食はまだ認められていない。このため、交歓会については学外での開催を検討していただくこととなった。ポスター発表のオンライン開催では特別なソフトウェア等を使用するのか？」

木村委員長「Zoom のブレイクアウトルーム機能を使用し、スライド数枚で参加者に対して説明を行う形式を予定している。」

東海会長「東京海洋大学では Eduroam に登録していれば Wi-Fi が使用可能になるので活用を検討してほしい。学会賞授賞式を 3 月 30 日の正午付近に開催することを検討してほしい。」

木村委員長「大講義室を授賞式開催場所の候補として検討したい。」

第 5 号議案 「令和 5 年度春季大会業務委託業者」の件

八木関東支部担当理事及び木村大会実行委員長から、原案について説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案の通り可決した。

本件について次の質疑応答があった。

東海会長「講演要旨印刷物の配布希望の有無で大会参加費は異なるのか？」

木村委員長「印刷物の作成に要する金額は大きくないので、大会参加費は同一とする予定である。」

第 6 号議案 「令和 5 年度春季大会募金目論見書」の件

八木関東支部担当理事及び木村大会実行委員長から、原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案の通り可決した。

第 7 号議案 「令和 5 年度秋季大会の担当機関」の件

栗田東北支部担当理事から、東北大学が秋季大会開催を担当する旨の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案の通り可決した。

第 8 号議案 「第 21 回日本農学進歩賞の推薦」の件

大嶋学会賞担当理事から、原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案の通り可決した。

第 9 号議案 「2023 年度日本農学賞の推薦」の件

大嶋学会賞担当理事から、原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案の通り可決した。

第 10 号議案 「第 44 回沖縄研究奨励賞の推薦」の件

大嶋学会賞担当理事から、原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案の通り可決した。

第 11 号議案 「水産学若手の会公式 Twitter アカウント運用ガイドライン」の件

東海会長からの求めにより、若手の会委員会の委員長でもある加藤会計幹事から、原案の説明があった。本件について次の質疑応答があった。

古川オブザーバー「Twitter の情報発信力は大きいので、水産学会の活動に対する社会的認知が向上することを期待している。」

八木理事「水産学会の公式アカウントで個人の意見を発信してしまうのではないかという懸念は、運用ガイドラインの修正によって解消されたと思う。ただし、SNS の利点である即応性がスポイルされる面もある。」

東海会長「水産学若手の会の活動に限らず、水産学会全体の活動についても情報発信をしてもらいたい。発信する情報の安全性の管理を徹底したうえで、SNS の利点である即応性も活かして運用してもらいたい。」

審議の結果、出席理事全員一致で原案の通り可決した。

第 12 号議案 「水産学若手の会委員会の活動」の件

東海会長から、水産学若手の会委員会がシンポジウムや講演会等を企画・開催することについては、委員会等設置規程及び水産学若手の会委員会運営規程に規定された委員会の関連業務とみなすことで実施可能とする提案があり、審議の結果、出席理事全員一致で原案の通り可決した。

第 13 号議案 「担当理事による委員会委員及び委員長就任について」の件

東海会長から、原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案

の通り可決した。

#### 第 14 号議案 「共催及び後援」 の件

廣野総務担当理事から、原案の説明があった。審議の結果、次の共催及び後援を出席理事全員一致で可決した。

##### ① 日本学術会議公開シンポジウム

「水産からカーボンニュートラルの未来を展望する」

主 催 日本学術会議食料科学委員会水産学分科会

共 催 水産・海洋科学研究連絡協議会、日本農学アカデミー

日 程 令和 4 年 11 月 25 日

場 所 オンライン開催

希 望 共催

負担金 なし

##### ② 日本学術会議公開シンポジウム

「東日本大震災に係る食料問題フォーラム 2022－原子力災害 11 年の総括と福島県農林水産業の復興－」

主 催 日本学術会議農学委員会・食料科学委員会合同東日本大震災に係る食料問題分科会

後 援 日本農学アカデミー 他 10 団体

日 程 令和 4 年 11 月 19 日

場 所 双葉町産業交流センター（福島県双葉郡）

希 望 後援

負担金 なし

（報告事項）

##### ① 第 4 回理事会以降の職務執行状況

###### ・会長

東海会長から、次の報告があった。

- 1) 水産・海洋科学研究連絡協議会については、会議等の開催はなく、特段の報告事項はない。本会の共催を決定した日本学術会議公開シンポジウム「水産からカーボンニュートラルの未来を展望する」については、水産・海洋科学研究連絡協議会も共催となって 11 月に開催される予定である。

###### ・庶務関係

廣野担当理事から、以下の報告があった。

- 1) 支部幹事 109 名の投票における過半数を得て、古川史也会員、マーシーワイルダー会員、および蒲原 聡会員が今期の会長指名理事候補者となることが承諾された。3 名の理事候補者については、次回の総会での承認を得ることで正式に理事に就任することになる。  
本件について、オブザーバーとして参加した理事候補者それぞれから挨拶があった。
- 2) 令和 5・6 年度学会賞選考委員会委員選挙の投開票の結果、15 名が委員として選出された。
- 3) 資格喪失者（会費未納）のうち、会費を納入した次の者を退会者へと取り扱

いを変更した。

片岡佳孝（正会員、令和 30 年度資格喪失）

- 4) 以下の協賛 3 件について、「共催、協賛、後援の取り扱いの申し合わせ」の 3) を適用して承認したとの報告があった。

① 食品ハイドロコロイドセミナー2022

主 催 食品ハイドロコロイド研究会  
協 賛 化学工学会 他 20 学協会  
日 程 令和 4 年 9 月 29 日  
場 所 京都大学農学部総合館（京都府京都市）  
希 望 協賛  
負担金 なし

② 第 33 回食品ハイドロコロイドシンポジウム

主 催 食品ハイドロコロイド研究会  
協 賛 化学工学会 他 20 学協会  
日 程 令和 4 年 9 月 30 日  
場 所 京都大学農学部総合館（京都府京都市）  
希 望 協賛  
負担金 なし

③ 第 8 回海中海底工学フォーラム・ZERO Online

主 催 海中海底工学フォーラム・ZERO 運営委員会  
協 賛 日本船舶海洋工学会 他 7 団体  
日 程 令和 4 年 10 月 14 日  
場 所 東京大学大気海洋研究所講堂（千葉県柏市）・オンライン配信  
希 望 協賛  
負担金 なし

・企画広報関係

廣野担当理事から、令和 4 年 7 月 6 日と 9 月 2 日に企画広報委員会を開催した旨の報告があった。

・財務関係

佐野担当理事 特になし

・編集関係

落合担当理事から、以下の報告があった。

- 1) 7 月 19 日に第 2 回編集委員会を開催した。Fisheries Science のインパクトファクターが 2.148 に上昇したことから、これに関する会告を学会 HP に 8 月に掲載した。インパクトファクター上昇の理由として、総説論文、ならびに被引用回数が多い論文の掲載が挙げられる。これに伴って、水圏生物科学系分野における本誌の順位も上昇した。一方で、掲載論文数は年々減少している点は懸念される。
- 2) 論文賞選考について、現在、選考時期が年末年始に跨っており、選考時期を繰り下げる等の調整可能かどうかを検討している。本件について次の質疑応答があった。

東海会長「論文賞の選考時期については、春の大会の授与式に間に合わせるためには2月の理事会で審議する必要がある、年明け（現在の選考時期）に決める必要があるのではないか？」

澤田理事「年末年始は繁忙期ではあるが、授与式のことを考えると日程は限られる。」

東海会長「若干の日程変更は可能かもしれないので、委員の負担軽減を考慮して検討してもらいたい。FSのインパクトファクターの上昇には総説論文掲載の貢献が大きいと考える。現在、総説論文の掲載費用を科研費（公開促進費）から支出している。今後の総説論文の掲載費の支出方法については、予算案も含めて検討を進めていく必要がある。」

#### ・学会賞関係

大嶋担当理事から、以下の報告があった。

- 1) 9月10日に学会賞選考委員会を開催した。水産学技術賞の推薦が4件あり、そのうち1件において候補連名者が10名と多かった。賞状と盾の授与について、盾は受賞1件につき1個として、賞状は人数分を授与する方向性で内規の一部改正を検討している。水産学技術賞の対象としてこうした研究グループを含めるか、あるいは新たな賞を創設するのかの検討が必要と考えている。
- 2) 日本水産学会賞と日本水産学会功績賞の区別が明確ではないという意見が出たため、各賞の違いを明確化するための規程の一部改正を検討している。
- 3) 学会賞の候補者が少なくなっており、全体の改革を考えるように理事会に具申する。本件について次の質疑応答があった。

東海会長「学会賞の選考結果は次回理事会での決議事項となる予定なので、その際にあらためて議論することとしたい。」

#### ・シンポジウム関係

河村担当理事から、令和4年度秋季大会においてフルシンポジウム1件、ミニシンポジウム2件が開催された旨の報告があった。また、令和5年度春季大会については、いまのところ企画の提案はない旨の報告があった。

#### ・出版関係

山下担当理事から、これまでにe-水産学シリーズは2巻が発刊されており、第3巻が10月20日に刊行予定（電子体税別2,000円、冊子体税別4,400円）、第4巻が12月中旬に刊行予定、第5巻と第6巻が刊行に向けて作業中である旨の報告があった。第7巻以降の企画を募集中であり、シンポジウム等を開催した場合には、本シリーズでの発刊を検討してほしいとの依頼があった。

#### ・水産技術誌監修関係

有瀧担当理事から、令和4年8月21日から23日の間にメール会議にて開催した令和4年度第1回水産技術企画・編集委員会についての報告があった。

#### ・国際交流関係

佐野担当理事から、以下の報告があった。

- 1) 令和5年度春季大会で開催予定の英語セッションについて、対面・オンライン開催のいずれの開催形式となっても実施するよう、大会実行委員にお願い

する予定である。

2)2024年3月にシアトルで開催予定の World Fisheries Congress (WFC)について、国際プログラム委員会が開催され Fish and fisheries at the water food energy nexus というテーマのもと、サブテーマとセッション形式の提案を、12月頃を締め切りとして各メンバー学会に募集している。また、Primary speaker を募集中である。海外学会の大会への学会員への派遣については、コロナ感染症の影響によって派遣見送りが続いているが、今後は状況が好転することが見込まれるので、若手の会を中心に派遣推薦の方法を検討していきたい。佐藤秀一会員がアメリカ水産学会に参加したが、この学会には各関連学会の会長が多数出席しており、本学会からも会長の出席が望ましいとの要望があった。今年開催予定のイギリス諸島水産学会と韓国水産科学学会には、当学会からは文章またはビデオメッセージを送ることとなっているが、今後は会長または副会長の出席を検討すべきかもしれない。韓国水産科学学会は10月上旬までは参加を受け付けるとのことである。The World Council of Fisheries Societies (WCFS) に、マレーシア水産学会の新規参加希望があり、本学会は承認する意向を伝えた。本件について次の質疑応答があった。

佐野理事「円安や燃料高騰により、海外出張の費用が高騰しているので、海外出張の上限額の変更を求める意見が寄せられている。」

東海会長「海外出張の旅費上限については、財務と総務で見直す方向で検討してほしい。」

・水産教育関係

中田担当理事から、コロナ渦における教育現場での実験・実習の実施方法の工夫について、各教育機関からアンケート調査を行って情報を集めることを企画している旨の報告があった。

・水産政策関係

八木担当理事から、本日（令和4年9月17日）開催中の水産政策委員会が主催するシンポジウム「現場と政策の乖離を埋めるために必要な科学とは」について、120人程度の出席があった旨の報告があった。

・漁業・資源管理関係

小島担当理事から、漁業懇話会を来春の学会大会で開催予定である旨の報告があった。

・水産利用関係

落合担当理事から、第2回水産利用懇話会委員会を令和4年9月30日に開催予定であり、委員会と同日に第1回講演会「東日本大震災からの水産加工業の復興」（ハイブリッド方式で開催）を開催予定である旨の報告があった。

・水産増殖関係

佐野担当理事から、令和4年9月7日に第2回水産増殖懇話会講演会を開催し、40名強の参加者があった旨の報告があった。また、吉田担当理事から、水産増殖懇話会講演会と同日に水産増殖懇話会委員会を開催し、令和5年度第1回講演会を春季大会開催中に実施する方針を決めた旨の報告があった。

・水圏環境関係

大嶋担当理事から、水産環境保全委員会が企画したシンポジウムが令和4年9月7日（令和4年度秋季大会開催期間中）に開催され、9題の講演に対して20名強の参加者があり、シンポジウムの内容をe-水産学シリーズに取りまとめて出版する方針である旨の報告があった。また、同日に開催した水産環境保全委員会において副委員長に東北大学の西谷豪会員が選出され、春季大会では赤潮に関するシンポジウムを企画している旨の報告があった。

- ・男女共同参画関係

中田担当理事から、令和4年10月8日に男女共同参画学協会連絡会のシンポジウムが開催される予定であり、本学会の取り組み内容を紹介する準備を行っている旨の報告があった。また、昨年度実施した第5回科学技術系専門職の男女共同参画実態調査（大規模アンケート）の解析結果が学会HPに掲載された旨の報告があった。

- ・水産学若手の会関係

廣野担当理事から、水産学若手の会委員会の活動報告として、2回の委員会の開催、シンポジウムの開催、ワーキンググループにおいて水産学若手の会公式Twitterアカウントの運用ガイドラインの取りまとめを行った旨の報告があった。また、加藤幹事（水産学若手の会委員長）から、令和4年度秋季大会で実施した、発表を行わない学部学生の大会参加費無料の取り組みについては、21名の事前申し込みがあったものの、台風の影響によって実際の参加者は16名（東京からの参加者を含む）であった旨の報告があった。

- ・社会連携関係

木村担当理事から、本学会の社会連携を進めるために、東海会長、蒲原理事候補者、澤田担当理事が参加したオンラインの会議を行い、養殖業を含めた生産現場、水産試験場、大学の抱える課題について情報交換を行うとともに、将来において支部活動の一環として水産試験場や水産研究・教育機構の研究者と支部との情報交換の交流を行うことなどの議論を行った旨の報告があった。本件について次の質疑応答があった。

澤田理事「水産試験場等では県を跨いだ出張が難しいので、オンラインでの情報交換を活用してはどうかとの意見があった。」

東海会長「各支部内で大学と水産試験場の情報交換や連携、交流を進めてもらいたい。学会全体としては、全国水産試験場長会に対して本学会との連携や要望についての取りまとめを依頼している。各支部と水産試験場、あるいは大学と水産試験場の連携を本学会が中心となって進めていきたいと考えている。」

蒲原オブザーバー「近年の生産現場では、分野を跨いだ課題が多い。日本水産学会が中心となって各分野間の連携が進められれば課題解決につながるものと期待している。」

- ・将来計画関係

山下副会長から、2018年にこれからの展望を取りまとめて以降5年間が経過しようとしており、2022年度の現状を把握するために、関連する学会に会員構成についての調査を行っている旨の報告があった。

- ・北海道支部、地域連携関係

木村担当理事から、令和4年8月23日に支部幹事会をメール会議で開催し、また令和4年11月26日に北海道支部大会をオンラインで開催し、公開シンポジウム「水産増養殖へのスマート化技術導入の可能性」、支部総会、支部幹事会および一般研究発表を実施することを決定した旨の報告があった。

- ・東北支部、地域連携関係

栗田担当理事から、令和4年10月15日に支部大会を開催する予定であり、ミニシンポジウム「東北地方における磯根資源の変動と現状：近年の高水温傾向を中心として」と一般発表を実施する予定である旨の報告があった。

- ・関東支部、地域連携関係

八木担当理事から、令和5年度春季大会の準備を進めているが、近年銀行口座の開設が難しくなっており、支部の銀行口座の開設について本部で対応可能か検討してほしい旨の報告と要望があった。本件について、佐野財務担当理事から、ネットバンキング等も含めて支部の銀行口座開設の対策を検討中であるとの回答があった。

- ・中部支部、地域連携関係

奥村担当理事から、支部幹事会をメールで開催し、支部大会を令和4年12月17日にオンラインで開催することを決定した旨の報告があった。

- ・近畿支部、地域連携関係

澤田担当理事から、令和4年9月24日に第1回支部大会を開催予定であり、社会連携推進のために研究紹介・相談会を設定したところ、兵庫・奈良県を除くすべての県の水産試験場からと漁業協同組合1件、大学1件、高校3件の応募があり、オンラインでZoomのブレイクアウトルームを使用して研究紹介・相談会を実施する予定である旨の報告があった。本件について次の質疑応答があった。

東海会長「高校生の参加もあり、社会連携に加えて教育的な意義もある良い取り組みだと考える。支部の取り組みの優良事例を学会全体で共有することも重要であると思う。学会誌で各支部の事例紹介記事を掲載する企画もあると良い。」

- ・中国・四国支部、地域連携関係

有瀧担当理事から、支部大会を令和4年12月26、27日にオンラインで開催する予定であり、近いうちに学会HPへの掲載依頼を予定している旨の報告があった。

- ・九州支部、地域連携関係

吉田担当理事から、令和5年1月に支部総会を開催予定である旨の報告があった。また、令和4年9月5～7日の間に開催した令和4年度秋季大会では、口頭発表187題とポスター発表89題、高校生発表12題の申し込みがあり、台風の影響による講演キャンセル10数題があったものの、シンポジウム3件と講演会2件も開催され、参加者は正会員237名、学生会員129名、非会員21名、賛助会員41名（合計428名）、高校生と引率教員が50名であった旨の報告があった。

- ・英文書籍監修委員会（特別委員会）

山下担当理事 特になし。

- ・財務検討委員会（特別委員会）

佐野担当理事から、銀行口座開設方法の検討を進めている旨の報告があった。

② その他確認事項

(1) 次回の理事会について

廣野総務担当理事から、次回の理事会は令和4年11月19日（土）13時からWeb会議システムにて開催するとの説明があった。

以上をもってWeb会議システムを用いた会議は、終始異状なく議案の審議等を終了したので、16時00分、議長は閉会を宣言し、解散した。

以上、この議事録が正確であることを証するため、出席した議長（代表理事）及び監事は記名押印する。

令和4年9月17日

公益社団法人 日本水産学会  
議長 会長（代表理事）

監 事

監 事

監 事